

## 第 11 回薩摩川内市行政改革推進委員会 会議録

開催日時	平成 30 年 3 月 16 日(金) 13:30～15:45	
開催場所	薩摩川内市役所 103 会議室	
出席者	委員	外藺会長、仙波副会長、田島委員、宮元委員、石原委員、小平委員、白男川委員
	事務局	企画政策部長、行政改革推進課長、同課職員
	傍聴者	なし

### □会次第

開会	主管課・室
1 開会	
2 公共施設マネジメントについて	
3 平成 29 年度の補助金等評価の平成 30 年度当初予算編成への反映状況について	
(1) 補助金等評価の取組状況について	
(2) 今後の評価の在り方について	
4 閉会	

### □議事

#### 1 開会

##### ○会長

(挨拶)

#### 2 公共施設マネジメントについて

(主管課説明後、質疑・協議)

○委員 「2 公共施設マネジメントの今後の取組み」の説明で、適切な施設の維持管理、長寿命化の対応を実施していくことは理解した。施設集約化の検討を行う際には、将来的に取り壊したり、撤去したりすることに対して住民の要望をきちんと聞いた上で判断してほしい。

●主管課 意見・要望として承りたい。

○委員 財産仕分けで、処分した主なものは何か。

●主管課 集会所、観光施設、農林水産・商工施設、運動広場等である。具体的には、

東郷ゆったり館、いこいの村藺牟田池、上之湯・下之湯、大村温泉、黒木温泉、市が所有していた自治会館等である。

○委員 廃校になった学校について、現在は、地域住民が対応したら支援するという市の方針となっている。他の市町村では行政主導で地域活性化された例もあると聞いている。行政が主導して地域が活性化するよう仕向けて行くのも市としての役割でないか。他の公共施設についても同様である。

●主管課 平成 29 年 3 月に策定した公共施設再配置計画で床面積を 43%減らすという目標がある。特に、床面積が広い閉校跡地は行政が管理していくのが有効か、地域・企業の力を利用するのが有効かを判断し、活用を進めている。例えば、甕島に

あるコシキテラスは、港の待合所を廃止して地域活性化施設として生まれ変わった。また、まだ成果は出ていないが、旧高来西中学校跡地では、白いキクラゲの栽培のため、民間企業と賃貸借契約を行い、企業の力を利用している。行政主導でなくとも地域が活性化している事例が出てきている。

- 企画政策部長** 合併時に全体で1, 230施設があった。類似施設は統合、老朽化した施設は廃止・解体と基本的には市有財産をスリム化する考え方で取り組んでいる。地域が寂れるとの心配もあるかと思うが、地域と一体となって施設の機能を付加するという道もある。一緒にやっという地域には市も全力で応援している。ご理解いただきたい。
- 委員** 施設を集約する、利活用するという意見を“地域”から聞いているとのことであるが、どういった方と話をしているのか。
- 主管課** 集約案を作成した上で、地域の代表に相談している。対象は、地区コミュニティ協議会である。同協議会会長に相談し、地域の事情を聴きながら相談を行っている。
- 委員** 地域の限られた人だけに相談することがないように対応してほしい。
- 会長** 閉校となる高江中学校。その後の使い道の予定はあるのか。
- 主管課** 閉校後1年間は備品整理等のため教育委員会が管理し、1年後に財産活用推進課へ移管される。現在は、峰山地区コミュニティ協議会に対して、最終の意向調査を実施している段階である。閉校後の学校に対し、熱い思いがある地域が多いため、まず地域優先で利活用を模索されるよう促している。ハード1,000万円、運営200万円を5年間、計2,000万円の補助制度がある。地域では難しいという意見があれば、企業誘致を進めている。企業誘致の場合は、2分の1補助で上限1億円。学校解体経費が平均2億円ほどかかるた

めである。補助制度に対し、企業から問い合わせが多数ある状況であり、様々な角度から利活用が進んでいくと考えている。

- 主管課** 毎年、進捗状況を行政改革推進委員会の中で報告していくので、審議をお願いしたい。

### 3 補助金等評価平成29年度の補助金等評価の平成30年度当初予算編成への反映状況について

- (1) 補助金等評価の取組状況について
- (2) 今後の評価の在り方について

(事務局説明後、質疑・協議)

- 委員** 評価結果個票で、上段は内部評価結果、下段は外部評価結果となっている。外部評価の視点別評価には「高い」又は「低い」しかない。中間の評価を設け、幅を持たせるなど、改善できないか。
- 事務局** 過去の委員からも同様の意見があったが、事務局としては、厳しい判断の中で、補助金等評価を実施したいと考えている。他の委員から柔軟性を持たすべきとの意見があれば、検討したいがどうか。
- 会長** 視点別評価の「高い」又は「低い」は明確にすべきと考える。中間の評価を設けてしまうと大半がそこに収まってしまうと危惧する。また、評価される側としても「高い」又は「低い」で判断された方が改革・改善に取り組みやすいのではないか。
- 委員** 異議なし
- 委員** 他の補助金等と比較するため、点数化を検討できないか。全ての補助金に点数を付けると補助金の重要度が分かってくると思う。個々の補助金を「高い」か「低い」で判断すると全体が見えない。
- 事務局** 分野が異なる補助金等に対し、点数を付けて評価できるか点数化には課題があるのでと考えている。他市の事例を調査しながら、導入する余地があるのか研究したい。
- 会長** 内部評価をする課所によって内部評価に濃淡があるので、評価しにくい。

●**事務局** 特に、「適格性及び妥当性」の項目の3段目で説明したところは、以前から行政内部でも解釈が異なっていた。そのため、今回、評価する側、評価される側にもわかりやすいように、事務局で評価方法を整理した。

○**会長** 事務局が整理した「適格性及び妥当性」の項目の3段目、自助努力、半永続的・固定的な補助金等かどうかは、とても大切な項目である。だからこそ、4つの視点とは別で評価できないか。「適格性及び妥当性」は6項目もあり、判断しづらい。

●**事務局** 現状で4つの視点に、自助努力、半永続的・固定的な補助金等かどうかを別な項目として5つの視点として評価できないかとの意見であった。また、「公益性」、「必要性」、「有効性」は1項目、「適格性及び妥当性」は6項目あり、偏っているし、評価がしづらいとの意見であった。しかしながら、事務局としては、項目数は多いとは言え「適格性及び妥当性」で評価すべきではないかと考えている。また、別出してしまうと際立ちすぎるのではないかと考えている。

○**委員** 際立ちすぎると思う。

○**委員** 4つの視点に1つ視点を追加することは難しいのか。

●**事務局** 制度ができて以来、4つの視点で外部・内部評価している。事務局としては、これまで同様4つの視点での評価を考えている。その中で、評価しにくかったこの項目のみ整理できないかと考えている。5つの視点としても良いが、検討に時間が要すると考える。

○**委員** 4つの視点は並列と考えてよいか。「公益性」、「必要性」、「有効性」は、補助を受ける団体等のことを評価し、「適格性及び妥当性」は、補助金等を交付することを評価している。「公益性」、「必要性」、「有効性」があるので、「適格性及び妥当性」を見ながら、補助金等を交付するとの流れ

となっているのではないか。

●**事務局** 並列である。客観性と主体性とのバランスを考慮しなければならないので、やはり、この場では回答できないため、今後の検討課題としたい。

○**委員** 異議なし

#### 4 閉会

○**事務局**

(挨拶)